

## 9月1日のウクライナ情報

安齋育郎

### ●西側が史上最も強力な制裁を行なった結果、ロシアは西側部品を使わない完全国産の最新ジェット機が予定より早く完成した(2023年8月29日)

今やロシアは、西側諸国の部品を使用しない近代的なジェット機を保有している。それゆえ、市場には新たな競争相手が現れたのだ！

スホーイ・スーパージェット 100 が初飛行に成功したとロシア産業貿易省が発表した。輸入代替機は予定より早く離陸した。飛行時間は 54 分で、高度 3,000 メートル、時速 343 キロで飛行した。テスト中、専門家たちは国内の全システムの安定動作、空中での航空機の制御性と安定性を確認した。

ロシアの開発者は、独自の設計ソリューションと技術を航空機に実装し、搭載した。12 月、ユナイテッド・エンジン社は、旅客機用に設計された PD-8 エンジンの飛行試験の開始を発表した。

以前、SSJ-100 型機にはロシア・ヨーロッパ共同開発の SaM-146 型エンジンが搭載されていたが、制裁措置により生産が停止されたため、完全国産の PD-8 を開発する必要があった。

<https://twitter.com/i/status/1696432371807973419>



### ●ハンガリーで話すタッカー・カーソン(2023年8月29日)

戦後秩序は完全に崩壊しつつある。NATO は明らかに崩壊する。結局のところ NATO を動かしている張本人、すなわち米国が FRG の安価なエネルギー源であるノルドストリームを妨害している事は容認できない。バイデン政権はノルドストリームを爆破した。

そしてドイツ人は自己嫌悪に陥っており、それについて語ろうとしない。

しかし私はそれについて話したい。重要なことだからだ。

第一に歴史上最大の産業破壊行為だった。

第二に史上最大の人為的 CO2 排出があった。地球温暖化の宗派であれば悪魔が地上に降りてきたようなものだ。そしてバイデン政権がそれを行った。

第三に最も重要なことはヨーロッパで最も強力な国であるドイツへの攻撃だったという事だ。西ヨーロッパは米国の最後の同盟国である。そして我々は最も重要な同盟国を攻撃したのだ。NATO は長期的には立ち行かないだろう。遅かれ早かれドイツ人は目を覚まし、こう言うだろう。

我々の経済を破壊した。

長続きするとは思えない。本当にそう思う。

<https://twitter.com/i/status/1696484869348700384>



### ●中東の視点で読み解く BRICS 首脳会議について越境 3.0 チャンネルの石田和靖氏と YouTube で解説(及川幸久、2023年8月29日)

世界が注目した BRICS サミットには隠れた意味がある。BRICS に OPEC プラスが入ってきたこと。中東のスペシャリスト、カズ石田さんならではの視点をお聞きした。

#### BRICS プラスの新メンバー6 カ国:

SAサウジアラビア, AEUAE, IRイラン, ARアルゼンチン, EGエジプト, ETエチオピア

サウジ, UAE, イランが OPEC プラスだ。

次に BRICS プラスに加盟申請しているのが 17 カ国。

#### そのうち 6 カ国が OPEC プラスのメンバー:

アルジェリア, バーレーン, クェート, カザフスタン, ナイジェリア, ベネズエラ

つまり、BRICS は単なるグローバルサウス、新興国の集まりではない。OPEC プラスが大挙して入って、石油という最強の武器を持った集団になる。

それも、石油の決済を米ドル(ペトロダラー)から自国通貨でできる決済システムを構築する。その後には BRICS 共通通貨へ移る。

すでにサウジアラビアは大量に保有していた米国債を放出し始めた。中国も同じ。ペトロダラーに基づいた米ドルの覇権は終わりに向かっている。

日本はどうなるか？ウクライナに武器を提供したことでロシアを敵に回し、ロシアの石油は日本に入らなくなった。日本の石油輸入の 97%が中東に。しかし、サウジを中心とした中東は BRICS プラスで、中国とつながる。

米国・NATO が東アジアで中国と武力対立を起こすと、NATO 側にいる日本に BRICS 側の中東は石油を止める。

1970 年代に同じ状況があった。中東戦争で、イスラエル vs アラブの時、米国と共にイスラエル側につく日本にアラブ諸国の石油が止まった。この時、田中角栄は米国を振り切り、イスラエル側に付か

ず、中立に。石油危機は終わった。しかし、その後、田中への報復はロッキード事件。  
今、日本は同じ状況に向かっている。



### ●在外フランス大使会議にてマクロン大統領「国際情勢は複雑さを増しており、西側諸国、特に欧州が力を失うリスク」(2023年8月30日)

既存の世界秩序を変えようとする試みは、西側諸国、特に欧州を弱体化させる恐れがあると、マクロン大統領は大使会議で述べた。

「国際情勢は複雑さを増しており、西側諸国、特に欧州が力を失う危険性をはらんでいる。過度な悲観論に陥ることなく、冷静に対処する必要がある」と述べた。西側諸国が支配的な地位を占めている世界秩序、その原則、組織のさまざまな形態が見直されようとしている。

フランスの指導者によれば、「国連安全保障理事会や、国際通貨基金、世界銀行など多くの国際機関の役割は、絶えず問われている」。

「これらのルールは、今の新興国が存在しない世界で作られたものであり、地政学的、人口統計学的、軍事的な現実を考慮していない。このことは、ここ数日の BRICS 拡大の試みに現れている。この (BRICS の) 拡大は、我々が世界秩序と呼んでいるものにとって代わる秩序を確立したいという願望を示している。」

<https://twitter.com/i/status/1696690976843247963>



### ●米国下院議員ローレン・ボーベルト、ゼレンスキーに憤慨(2023年8月30日)

ゼレンスキーは、アメリカが金を出さずなら選挙をやると言っている。  
この文章を読んで、少し考えてみてほしい。  
私たちがお金を出せば選挙を行うというのだ。  
あなたの外交政策が、要求すれば誰にでも白紙小切手を切るというものであれば、こうなる。  
(ゼレンスキーは、米上院議員リンゼー・グラハムに選挙には約 1 億 3500 万ドルの費用がかかると言っているらしい)。



## ●プーチン大統領がぶっ潰れたソビエトをどのようにして建て直したか(2023年8月30日)

投稿者コメント: エリツィン元大統領が西側諸国にロシアの全てを投げ売りした物を取り返しました。オリガルヒから。

ソビエト連邦は悪かも知れないけど、ロシアはソビエトが崩壊してできた別物。

<https://twitter.com/i/status/1696648566243020963>



## ●ウクライナ軍による無人機攻撃(2023年8月30日)

2023年8月 29 日午前 0 時頃、プスコフの空港がウクライナ軍の 20 機以上の無人機によって攻撃された。

無人機は等間隔で連なって飛行した。防空部隊は無人機を破壊したが、撃墜現場では火災が発生した。

トルコのメディアは、プスコフの無人機はエストニアかラトビアから発射されたと書いている。



<https://twitter.com/i/status/1696694827994497337>



## ●あるロシア女性の行動(2023年8月30日)

14 歳のマーシャは、サンクトペテルブルクに行くという夢を叶えるために 1 年間お金を貯めてきた。彼女はその夢は後回しにして貯金を全て使い、前線にいるロシアの軍医の為に完全装備の医療用バックパックを購入した。このバックパックは既にザポロージャ地方の前線にいる軍医達の元に届けられている。



## ●西側諸国 ゼレンスキーに選挙実施を要求(2023年8月28日)

ゼレンスキーは、戦闘中のウクライナには選挙資金がないが、西側諸国が 50 億ドルを出せば選挙を実施できると述べた。

「私は信用で選挙を実施するつもりはないし、武器からお金を取って選挙に使うつもりもない……しかし、最も重要なのは、その時に一緒にリスクを取ろうということだ。オブザーバーは塹壕の中にいるべきだ。

一方、西側諸国は、敵対関係にあるにもかかわらず、選挙を予定通り実施することを主張している--それぞれ 2023 年 10 月と 2024 年春に。同時に、ウクライナ憲法によれば、戒厳令中は選挙を実施できない。

ウクライナで現在の選挙が必要な人と不要な人について、aif.ru は政治アナリストのセルゲイ・マルコフ氏と議論した。

ゼレンスキーは選挙が行われることを恐れているのか？

セルゲイ・マルコフ： - 彼は何も恐れていない。まともな人間なら、敵対行為中に公正な選挙が行われるとは思わないだろう。もちろん、理想を言えば、ゼレンスキーは選挙を中止したいのだろうが、それはロシアの軍事作戦が終わってからだ。

しかし、ウクライナが民主的で正当な政府であるかのように見せかけることが容易になるように、監督者たちは選挙を実施することを要求している。そうすれば、キエフ政権に資金を配分しやすくなる。彼らはゼレンスキーにこう答えている！黙って言うことを聞け。模擬選挙が必要なだけだ。ウクライナで公正な選挙が行われているとは誰も思っていない。お前も我々も、ウクライナは政権が支配しているなんて嘘っぱちだとみんな知っている。しかし、私たちはただみんなにふりをするように命じただけだ。だから、誰もがふりをしている。私たちは、公正な選挙が行われているふりをするように命令します。

- ゼレンスキーは、このような選挙には 50 億ドルの費用がかかると述べた。
- 彼に資金を割り当てると思うが、10 億ドルに減らすだろう。同時に、彼に圧力をかけるであろう。そして、ゼレンスキーは選挙を行うだろう。見せかけだけの茶番劇になるだろう。しかし、アメリカや EU などは、ウクライナの民主的な正当な権力を模倣するために、それを必要としている。
  - では、選挙の模倣はまだ組織されなければならないのか？
  - ゼレンスキーはどこに行くのだろうか？ しかし、彼は選挙がなくてもやっつけていけるが、それほど反対はしていない。そして今、他に良い方法がないため、彼は選挙に代償を払っている。
  - では、なぜ「一緒にリスクを取る」なのか？「オブザーバーは塹壕の中にいるべきだ」？
  - ゼレンスキーはこのように自らを宣伝している。ウクライナ軍とウクライナの政治システムは、誰もが考えていたよりもはるかに効果的であることが判明し、ゼレンスキー自身は概して世界ナンバーワンのスーパースターになったからだ。例えば、7月にヴィリニウスで開催された NATO 首脳会議では、ご主人様に対して「もちろん、あなたの命令には従いますが、ここウクライナはとてもクールだということに心を留めておいてください」と反論してみせた。
  - ウラジーミル・ゼレンスキーが塹壕にオブザーバーを入れるという要求は現実的なのだろうか？
  - そうだ、さまざまな国から多くの国会議員(危険な場所に何度も足を運んでいる)が喜んでウクライナに来るだろう。
  - 彼らはウクライナの最前線を直接視察するのだろうか？
  - なぜしないのか？知っての通り、最も ”無縁 ”な性的倒錯者たちは、最も ”退屈 ”なスカンジナビアの国々に住んでいる。だからスカンジナビアの国会議員が来るのだ。そして、彼らだけではない。



## ●【731 部隊の真実】エリート医学者と人体実験(投稿日

※投稿者コメント:NHK スペシャルで放送された驚愕の内容です。

「戦時中、旧満州で密かに細菌兵器を開発し実戦で使用した731部隊。部隊が証拠を徹底的に隠滅、元隊員が固く口を閉ざしたため、その実像を知る手がかりは限られてきた。

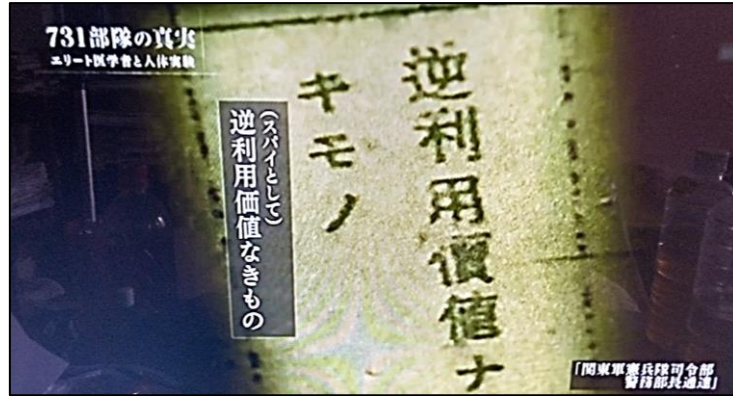
今回NHKは、終戦直後、旧ソ連で行われたハバロフスク裁判の音声記録を発掘した。」

731 部隊は捕らえられた中国人やロシア人、モンゴル人等に細菌を感染させ、絶命するまでの様子を観察したりその威力を調べる為の生体解剖まで行っていました。

そんな 731 部隊の研究者メンバーは戦後、誰一人として罪に問われることは無く、戦後の日本の医学界や製薬業界で大きな役割を果たすこととなった…。

この頃からワクチンの人体実験もしていたとは驚きです

<https://twitter.com/i/status/1696701899398164923>



### ●ロバート・ジュニア・ケネディの弁(2023年8月30日)

バイデン大統領は独裁的な議論をしていると思う。

私たちは今、この国の多くの人々が民主主義は崩壊し経済と政治のシステムが不正に操作されていると信じている時代に突入している。

バイデン大統領は討論する必要がある基礎的な討論をこなせる事を示す必要がある。

今日発表された新しい世論調査によれば、アメリカ人の 77%が、バイデンは年齢的に大統領にふさわしくないと答えている。

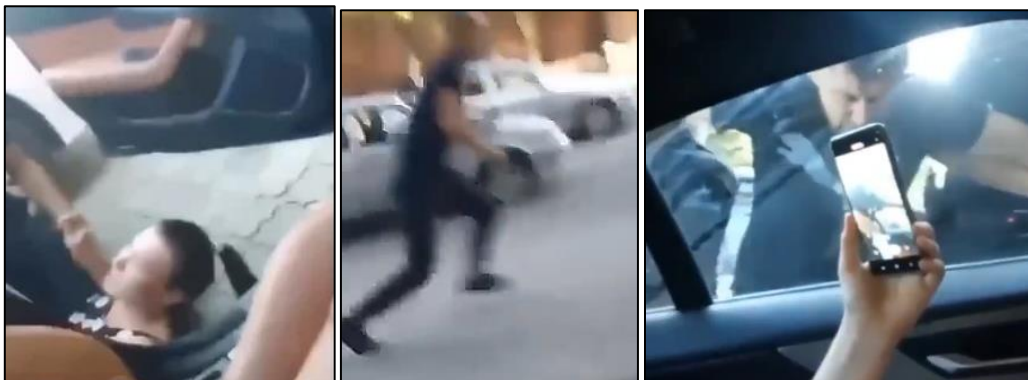
<https://twitter.com/i/status/1696701715230421107>



### ●ウクライナ・ドニエプロペトロフスク市での出来事(2023年8月30日)

警察官がまず女性を殴り、彼女の夫が立ち向かうと、子供達の前で夫を射殺した。

(子供はそれを終始スマホで撮っていた)







## ●ショルツ首相、プーチン大統領と電話会談した後に落ち込む(2023年8月29日)

「気になるのは、電話会談で話した内容ではない。プーチンが制裁について一言も文句を言わなかったことだ。」



## ●歴史人口学者エマニュエル・トッド語る(AERA, 2023年6月24日)

けれども、今回のウクライナ戦争が起きて、私の暮らすヨーロッパにアメリカがやってきたということになって、そしてウクライナでも多くの人々が亡くなっているという現状を踏まえると、やはり少し感情というものが、考えというものが、変わってきているわけです。

イラク戦争のことを池上さんはおっしゃいましたけれども、ウクライナ戦争も同じく、やはりアメリカが責任者であるわけですね。

私は「反米主義者」ではないと思います。つまり「反米」と言うと、アメリカの政治に反対したり、アメリカの文化的な側面に対しても反対をしたりする立場の人たちだと思うんです。でも、私はアメリカの文化的なところは愛している側面もあります。英語はフランス語以外でしゃべれる唯一の言語でもあるわけですね。

そうではなくて、私はむしろ、私の立場を「アメリカフォビア(米国嫌悪)」というふうに定義したいと思います。

ロシアフォビア(ロシア嫌悪)ということが言われますけれども、それと同じ意味で、アメリカ嫌いというわけです。反米主義とは、またちょっと別なものです。どういうことか。私は、アメリカをひじょうに「怖い」と思うようになったんですね。

確かに、この戦争を踏まえて過去のことを振り返ると、イラク戦争もしかりですけれども、ベトナム戦争やその後もいろんな戦争で多くの死者を出す戦争をしてきた国、アメリカという姿が見えてきます。

そのアメリカは、海外で死者を出すだけではなくて、いまや国内でも死者を出していると言えらと思います。中等教育しか受けていない人々の間では平均寿命が低下しています。そういった意味で、国内での打撃は存在します。

そんなアメリカというのはリベラル民主主義ではない、と私は思うわけです。それは単に、戦争を続ける、ときに何十万人も人を殺してしまう国ということです。

そのアメリカはそういった意味で、ある意味別もの、たとえるならカフカの『変身』という小説があるのはご存じかと思いますが、アメリカはカフカ的な意味での「変身」をしてしまったというふうに言えらると私は思います。



外野から単にウクライナ応援団やってるのはウクライナ人への「侮辱」「非道徳」  
「ウクライナの戦争はグローバリゼーションの頂点」

日本でも有名な歴史学者エマニュエル・トッドだが、今回の戦争についての彼の冷静で現実的な見方は日本では紹介されてないと思う。

<https://twitter.com/i/status/1696194671406690440>



### ●BRICS の現状(2023年8月29日)

第 15 回 #BRICS サミットでは、アルゼンチン、エジプト、イラン、エチオピア、アラブ首長国連邦、サウジアラビアの 6 カ国が BRICS へ正式加盟することが決まった。新加盟国の加入により、BRICS は #G7 を凌ぐ組織となる。

